

あそぼう×ぼうけん〜わっくわくランドしながわ

児童福祉週間にちなんで、品川区の児童センター25館と防災課が集まって行うイベントです。今年のテーマは、「あそぼう×ぼうけん」わっくわくする体験やあそびがいっぱい！青空のもと、家族や友だちと一緒に、思いっきり楽しもう！

期日：2019年5月12日（日）

時間：10：30～16：00

開場：10：15

終了：16：00

※受付は10：40～15：30まで

会場：しながわ中央公園

（雨天の場合は、しながわ中央公園・豊葉の杜学園アリーナ他）

※一部、時間・場所・内容を変更して行います

対象：乳幼児親子、小中高生、どなたでも



わっくわく
ランドしながわ
で会いましょう！

児童センター
キャラクター
「ゆめちゃん」

（編集委員 金原）

「かむろ坂さくらまつり」開催！

4月7日（日）かむろ坂さくらまつりが開催されました。当日は春らしい陽気の中、出店が38ブース、約16,000人が集まって大盛況でした。

西五反田四丁目町会が行っている「桜まつり」と同時に、この街の財産であるかむろ坂の桜並木を使って何かできるんじゃないか、地域の人が一緒に楽しめるイベントをと、第四日野小学校に通っていた若い世代の同級生たちに地元の知人友人が加わって実行委員会を結成、2016年から開催しています。

当日は、かむろ坂の車の往來をとめ、桜並木の下を自由に歩けます。実行委員会は地元の企業や店舗に寄付をお願いし、不動前商店の有志を中心に飲食店など出店交渉、各団体との打ち合わせ、近隣に理解いただくための説明に伺ったりと、1年間かけて準備を進めました。



今ではかむろ坂はもとより、四日野小も利用して、盛りだくさんの企画で様々な世代が楽しめるイベントになっています。

「このさくらまつりで街の人々が交流を深める、街の未来を作るようなイベントにしていきたい。」と実行委員長の石川さんは語ってくれました。

なお、実行委員会では更に地域に貢献できることをしようと月1回かむろ坂周辺の清掃ボランティアを行っています。地元のサッカーチームや中高生、親子連れなど有志も参加するようになり、清掃活動によるコミュニティも少しずつ広がってきました。

（編集委員 清水）

「おたがいさま運動 地域講座」が開催されました

2月8日（金）「おたがいさま運動 地域講座」が、町会・自治会連合会の主催で婦人・女性部の皆さんが参加して行われました。

「おたがいさま運動」の啓発DVD鑑賞に続いて、ご自身が聴覚障害を持っている辻海里さんが、手話通訳の方を通じて講演くださいました。難聴には種類があり、それぞれ聴こえ方が違うという説明や日常生活で困ることをお話くださいました。印象的だったのは「シンプルに1人の人として関わりを持ってほしい。関わりを持てば、その人が何に困っているのか見えてきます。」と話されたことです。これは障害のある方との関わりのみではなく、「おたがいさま運動」にも通じると思いました。



日本聴導犬推進協会スタッフの神嶋千晶さんからは聴導犬の紹介、働きや聴導犬の訓練について広報担当の聴導犬サラのデモンストラーションを交えて、話を伺いました。

ここで再度、聴導犬ノエルと一緒に来場された辻さんが聴導犬との生活について、お話をくださいました。聴導犬がいてくれることで「すみません」と言わずに済むことに気づいたそうです。聴覚障害は外見からわかりにくく、筆談を頼むのに「すみません」から始まることが多かった、という話にうなずく参加者が多くいました。

その後、二人一組になり、片方がアイマスクを付けて、他方が障害物を置いて通りにくくされた集会室内を案内して歩きました。そこから「怖い！」「大丈夫？」と聞こえてきました。

全員が目の不自由な方のご苦勞を実際の体験を通して知ったこともあってか、皆おたがいさまですね、という和やかな雰囲気講座は終了しました。

（編集委員 清水・小林）

カローリング大会&支え愛ひろば by 支え愛活動会議

2月23日（土）、日野学園を会場に、交流事業「カローリング大会（カローリングの地上版）」が開催されました。この大会は、地域に住む高齢者同士と子どもたちとの世代間交流を目的に実施し、今回は51名の方に参加していただきました。参加した皆さんは、ジェットローラーの動きに一喜一憂しながら楽しい時間を過ごしました。

3月17日（日）、子どもから高齢者まで「誰もが気軽に参加できる居場所」、支え愛ひろばが開催され、100名を超える方に来場していただきました。今回は、プラ電車のコーナーや折り紙、手作りコースターなどのコーナーもあり、皆さんは、それぞれに楽しんでいました。次回は、6月に開催予定です。チラシなどでお知らせいたしますので、ご来場をお待ちしております。（事務局）

川柳・俳句

母からの 往復切符に 里帰り

西五反田五丁目 山本 満江

男の胃 相めと母は 娘に教え

西五反田四丁目 森田 久子

同じ事 三度も話し じじ帰る

西大井三丁目 藤田 敬

お薬の 時間は忘れぬ 認知症

上大崎一丁目 折居 三知生

お年寄り 今日もあるあなたは だまされる

西五反田四丁目 飯田 芳郎

縁側で 寝息を立てる 春日かな

西五反田三丁目 斎藤 みゆき

趣味です ね 明るく元氣 話し好き

西五反田三丁目 大島 道子

10連休 浮世離れが また進み

西五反田六丁目 久保田 公二

第140号掲載の飯田芳郎様を飯島芳郎様と誤記いたしました。謹んで訂正し、お詫びいたします。

編集後記

平成元年（1989）に産声をあげた小紙も31年目の今年新しい元号を迎えました。

西暦は世界の標準年として誰にも共通の基準ですが、一方で大化以来わが国に綿々と続いている元号とは如何なるものなのでしょうか？

思えば受験生泣かせの元号でしたが、“天平、元禄、明治、”などと言えば臍（おぼろ）ながらそれぞれの時代が今でも私たちに浮かんできます。そればかりか元号のもとで生活している人には何かと実際の便利さも有ります。身近な昭和や平成は一步遠ざかりますが、新元号が歴史に残る良い時代になることを期待したいですね。（編集長 久保田）

地域の方が協力し意見を出し合って「はなぐるま」を作成しております。ご意見・ご感想や投稿などお気軽にお寄せください。編集委員も随時募集中です！一緒に紙面作りをしましょう。大崎第一地域センター 電話3491-2000までご連絡ください。